

令和 6 年度
第 64 回定例総会 議 案 書

令和 6 年 4 月 23 日（火）13：30～14：50

金沢勤労者プラザでの対面&Zoomによるオンライン



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

目 次

1. 令和5年度の事業報告	3
まえばん	
1) 総会・商議員会・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
3) 新潟市との災害協定の締結について	
2. 常設委員会活動報告	12
1) 表彰委員会	
2) ユースネットワーク委員会	
3) R6 能登半島地震災害調査団中間報告	
3. 令和5年度決算報告	16
1) 決算報告	
貸借対照表	
正味財産増減計算書	
財産目録	
2) 会計監査報告	
4. 本部・支部表彰	20
1) 永年会員への感謝状の授与	
2) 支部表彰の授与	
5. 役員改選	21
6. 令和6年度の事業計画	22
まえばん	
1) 総会・商議員・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
3) 液状化しやすさマップ更新委員会（仮称）の設立について	
7. 令和6年度の予算	24
8. その他	25

1. 令和5年度の事業報告

まえぶん

1. 公益出版事業〔公1〕

「液状化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」と流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行った。

2. 調査・研究事業〔公2〕

R6 能登半島地震災害調査団に協力して災害調査を行った。若手、学生会員による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施した。イベントの開催形式については、支部や地域の人的交流を促進する観点と参加機会増加による会員サービス向上の観点から、可能な範囲で対面形式とオンライン形式の並立をはかった。

3. 技術推進事業〔公3〕

R6 能登半島地震による新潟市の液状化被害調査をおこなうために新潟市と災害協定を締結した。セミナー、現場技術者のための講習会や富山県との災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催した。昨年に引き続き、大学の先生による土質力学講座をシリーズ形式で実施した。建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指した。

4. 表彰関連事業〔公4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い、技術部門・技術賞1件、研究・論文部門2件、功績部門・功績賞2件の表彰をした。ユースネットワーク研究発表会において学生の発表のうち7件を優秀発表賞として表彰した。

1) 総会、商議員会、幹事会の開催

(1) 第 63 回定例総会

日 時：令和 5 年 4 月 26 日(水)13：30～14：50

形 式：技術士センタービルでの対面と Zoom によるオンラインのハイブリッド

対面参加 44 名、オンライン参加 54 名、委任状 12 名 計 110 名

(2) 商議員会

日 時：令和 6 年 2 月 19 日(月)13:30～14:55(本日)

形 式：Zoom によるオンライン形式

商議員参加者： 26 名 内委任状 9 名

(3) 新潟地区幹事会 (WG3 若手ネットワーク活動について)

日 時：令和 5 年 8 月 10 日 (木) 15:00～

形 式：株式会社興和 10 階 会議室

参加者： 幹事 7 名 若手技術者 16 名

(4) 石川地区幹事会

日 時：令和 5 年 6 月 1 日(木)18:00～

場 所：石川四高記念文化交流館 多目的利用室 2

参加者： 12 名

(5) 富山地区幹事会

日 時：令和 5 年 5 月 12 日(金)15:00～

場 所：富山駅前 CiC ビル 5 階大学コンソーシアム富山 研修室 2

参加者：14 名

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会・現場見学会等の開催

(1) 総会時の特別講演会

日 時：令和 5 年 4 月 26 日(水)15:00～17:30

形 式：技術士センタービル&ZOOM によるオンライン

題目：「大河津分水路事業における技術的取組み (仮題)」

講師：若杉 匠 氏 国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 計画課課長

題目：「高速道路における土工構造物の変状事例と地すべり対策について」

講師：横田 聖哉 氏 東日本高速道路(株) 技術本部 シニアエキスパート

参加人数 76 名

(2) 実務者報告会とやま

日 時：令和5年5月26日（金）13:10～17:55

形 式：NIXホールでの対面&ZOOMによるオンライン

題目：砂防堰堤が地すべりを誘発！その調査は？

講師：香川 真氏 共栄興業（株）

題目：斜面对策で意外に怖い富山県西部の堆積軟岩

講師：杉山 茂久氏 三和ボーリング（株）

題目：「耐震補強設計における橋台背面の仮設計画」

講師：古野 昌吾氏（株）新日本コンサルタント

題目：急こう配の長大泥岩のり面の調査・設計・施工

講師：西本 俊晴氏 北陸建設技術士事務所

題目：海岸侵食による下水道吐口施設の被災とその対策

講師：荒井 秀和氏（株）新日本コンサルタント

題目：宇奈月ダムにおける連携排砂時に機能する第二網場設置計画

講師：蓮池 康明氏（株）新日本コンサルタント

題目：利賀ダム工事での安全管理と生産性向上について

講師：高橋 哲平氏 竹沢建設（株）

題目：営業線近接での鋼管杭圧入施工及び硬質地盤での圧入不能トラブルへの対応

講師：川田 圭介氏 佐藤工業（株）北陸支店

題目：崩壊法面における鋼管杭の施工及び新技術の活用について

講師：宝田 治樹氏（株）岡部

参加人数 70名

(3) 利賀ダム工事現場見学会

日 時：令和5年6月29日（木）13:00～17:30

形 式：バスを使っての現地見学

場 所：富山県利賀ダム工事現場

参加者 40名

(4) 地盤工学会と富山県との災害協定に基づく研修会

日 時：令和5年7月19日（水）13:30～16:40

形 式：ZOOMによるオンラインとNIXホールでの対面形式

題目：高速道路における最近のり面災害と対策の動向

講師：横田 聖哉氏

東日本高速道路株式会社 技術本部 シニアエキスパート

土木学会フェロー 博士(工学) 技術士(建設部門)

題目：デジタルツインによる防災対策の最前線
講師：飯塚 敦 教授
神戸大学 都市安全研究センター&工学研究科市民工学専攻
参加者 県関係 29名 学会関係 133名 合計 162名

(5) 第86回土質工学最新情報コロキウム

日時：令和5年9月15日（金）13:30～16:45

場所：NiX JAPAN（株）1F ホール

題目：活断層調査の最新事例

講師：立石 良 先生

富山大学 学術研究部 都市デザイン学系 准教授

題目：頻発する能登半島の地震活動について

講師：竹内 章 先生

富山大学 名誉教授

参加者 26名

(6) 「七尾大田火力発電所 灰処分場造成工事 および能越自動車道七尾 IC 改良工事」

現場見学会

日時：令和5年9月29日（金）13:30～17:00

形式：バスを使つての現地見学

場所：七尾大田発電所および能越自動車道七尾 IC 工事現場

参加者 15名

(7) R5 土質力学講座 第1回

日時：令和5年10月12日（木）16:00～17:30

形式：Zoomによるオンライン形式

題目：【圧密と観測的沈下予測】

有効応力と圧密理論の構成、適用限界を理解する。観測的沈下予測の重要性についても講述する。

講師：大塚悟 先生

長岡技術科学大学 教授

参加者 63名

(8) 第18回 地盤調査法講習会

日時：令和5年10月13日（金）13:00～15:10

場所：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所 敷地内

講習内容：

- (1) 原位置試験（ボーリングコア説明，サウンディングの講義と実技）
- (2) 室内土質試験（土質試験の講義と実技）
- (3) 物理探査（地中レーダ探査，磁気探査の講義と実技）

参加者 34名

(9) 第87回土質工学最新情報コロキウム

日時：令和5年10月27日（金）13:30～16:45

場所：金沢勤労者プラザ

題目：盛土規制法の施行について

講師：小富士 貴氏

国土交通省都市安全課 都市安全推進官

題目：盛土規制の技術的ポイント

講師：若井 明彦

群馬大学大学院 理工学教授

参加者 61名

(10) R5 土質力学講座 第2回

日時：令和5年11月13日（月）16:00～17:30

形式：Zoomによるオンライン形式

題目：【せん断】

土のせん断挙動について、砂と粘土を比較しながら説明する。応用問題（土圧、斜面安定、支持力）における強度定数 c 、 ϕ の取り扱いのみならず、排水条件によりせん断強度が大きく変化する理由について理解を深める。

講師：豊田 浩史 先生

長岡技術科学大学 教授

参加者 43名

(11) 現場技術者のための土質力学：第10回

日時：令和5年11月17日（金）13:30～16:45

場所：金沢大学サテライト・プラザ

題目：有効応力の原理による土のせん断強度の考え方

講師：熊 曦 先生

金沢大学理工研究域 地球社会基盤学系 助教

題目：分割法による複数の斜面安定解析とその適切な利用について

講師：高原 利幸 先生

金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 准教授

参加者 15名

(12) R5 土質力学講座 第3回

日時：令和5年12月7日(月) 16:00～17:30

形式：Zoomによるオンライン形式

題目：【土の限界状態】

ヨーロッパ系の土質力学テキストでは、せん断と圧密を限界状態理論に基づいて統一的に記述する。過圧密比や排水条件による土のせん断挙動の違いを限界状態理論により説土のせん断挙動について、砂と粘土を比較しながら説明する。

講師：小林俊一 先生

金沢大学 准教授

参加者 62名

(13) 第3回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会

日時：令和5年12月8日(金) 13:00～16:15

形式：Zoomによるオンライン形式

プログラム

・研究発表 (13時05分～15時)

学生による研究話題提供 発表時間9分以内、質疑4分

ブレイクアウトルーム利用による複数会場

・学生交流会 (15時10分～16時10分)

学生のみ参加可能 ブレイクアウトルーム利用による4～5名程度のグループ懇談

・優秀発表者賞表彰式 (16時10分～16時15分)

参加者 48名

(14) 特別講演会：新潟地区

日時：令和5年12月11日(木) 15:00～16:30

場所：技術士センタービル

題目：「地盤構造物の調査・設計法再考ー地盤工学と応用地質学の協働を進めるためにー」

講師：栗原 則夫 氏

参加者 59名

(15) 令和6年能登半島地震被害の速報会

日時：令和6年2月19日(月) 15:00～17:30

形式：Zoomによるオンライン形式

プログラム

調査団長の挨拶 令和6年能登半島地震被害調査団 団長

小林 俊一 先生 金沢大学

新潟県の被害状況 全体像 柏崎市の液状化被害 豊田 浩史 先生 長岡技術科学大学

新潟市西区青山-寺尾-小針-内野地区の液状化被害 保坂 吉則 先生 新潟大

新潟市西区善久地区およびその他の液状化被害 坂東 和郎 氏 (株) 興和

富山県の被害状況 被害概要 古谷 元 先生 富山県立大学

伏木, 新湊, 氷見の液状化災害 兵動 太一 先生 富山県立大学

小矢部市西山 R359 道路崩壊, 小矢部市石動 R491 ボックスカルバートの液状化災害, 同石

動小学校グラウンドの盛土の変状 竜田 尚希 先生 富山大学

富山市蓮町の液状化災害 村尾 英彦 氏 (株) 村尾地研

石川県の被害状況 被害概要 新保 泰輝 先生 石川工業高等専門学校

地質+地震動 高原 利幸 先生 金沢工業大学

ライフライン関連 宮島 昌克 先生 ライフライン防災総研

大谷トンネルの崩壊 上田 信二 氏 真柄建設 (株)

参加者 163 名

(16) R5 土質力学講座 第5回

日時: 令和6年2月22日(木) 16:00~17:30

形式: Zoomによるオンライン形式

題目: 斜面の安全性

講師: 新保 泰輝 先生

石川工業高等専門学校 准教授

参加者 47名

(17) R5 土質力学講座 第4回

日時: 令和6年3月14日(水) 16:00~17:30

形式: Zoomによるオンライン形式

題目: 土圧

講師: 竜田 尚希 先生

富山大学 助教

参加者 38名

3) 新潟市との災害協定の締結について

今回の能登半島地震による新潟市内の液状化被害について、新潟市は液状化対策検討方針を打ち出したく地盤系の学識経験者からアドバイスをいただきたいとの意向があり、災害協定を締結する運びとなりました。

協定文書

災害時における調査の相互協力に関する協定書

(趣旨)

第1条 この協定は、新潟市と公益社団法人地盤工学会北陸支部が、地盤災害発生時に高度な専門性が必要な場合の調査及び地域の防災力向上に関する相互協力の方法を定めるものとする。

(協力の内容)

第2条 新潟市（以下「甲」という。）は、地盤災害が発生し必要と認めるときは、公益社団法人地盤工学会北陸支部（以下「乙」という。）に調査等の実施を要請することができるものとする。

2 乙は、前項に定める要請があったときは、学術的領域の専門調査が必要かどうかを検討し、調査の実施の可否を回答するとともに、調査の実施が可能なときは、速やかに被災状況を調査し、甲へ報告するものとする。

3 乙は、地盤災害が発生し、自らが被災状況調査する必要があると認めるときは、甲に被災状況調査に関する協力を要請することができるものとする。

4 甲は、前項に定める要請があったときは、支部の実施する調査に可能な限り協力するものとする。

5 乙は、調査に基づく対策等の検討に際して、甲が学術的知見を求めたときは、可能な限り協力するものとする。

6 甲と乙は、双方協力し、安心に繋がる市民への情報や知見の提供に努めるものとする。

(連絡体制)

第3条 甲と乙は、毎年4月1日までに、第2条に定める調査等に関する連絡担当者を決定し、速やかに必要な情報を相互に報告し、この者を窓口として要請等のやりとりを行うものとする。翌年3月31日までの間において、連絡担当者等の変更が生じた場合も同様とする。

(調査要請の手続き)

第4条 甲は、乙に第2条第1項に定める調査の要請を行うにあたっては、あらかじめ次の事項を文章により通知する。ただし、緊急の場合は電話等によることができる。この場合には、事後において速やかに文章を送付するものとする。

(1) 調査の場所

(2) 被害の状況

(3) 調査の内容

(4) その他必要な事項

(費用の負担)

第5条 第2条第1項に基づき乙が実施する調査等において、調査費用が伴う場合には、甲は乙に対してその費用を支払うものとする。

2 第2条第3項に基づき乙が実施する調査の費用は乙の負担とする。

(有効期間)

第6条 この協定の有効期間は、協定の日から令和7年3月31日までとする。ただし、有効期間満了の1か月前までに、甲又は乙のどちらからも申出がないときは、1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(その他)

第7条 この協定に定めのない事項及びこの協定に疑義が生じた場合は、その都度、甲と乙が協議して決めるものとする。

この協定を証するため、本書2通を作成し、甲乙押印の上、各自その1通を所持する。

令和6年2月15日

甲 新潟県新潟市中央区学校町通一番町602番地1

新潟県市長 中原八一

乙 新潟市中央区新光町10番地3技術士センタービルⅡ7F

公益社団法人地盤工学会北陸支部

支部長 信太啓貴

2. 常設委員会活動報告

1) 表彰委員会

委員会の開催：

令和5年12月27日（水） 13:30～14:30

第1回表彰委員会（オンライン）、大塚、倉重、黒坂、村尾、森影、高原

令和6年1月31日（水）13:00～14:00

第2回事前表彰委員会（オンライン）、大塚、倉重、黒坂、村尾、森影、高原

2. 審議内容

第1回表彰委員会時点で、技術部門1件、研究・論文部門1件、功績部門2件の推薦がなされていたが、第2会の時点で研究・論文部門に新たに1件追加された。

最終的に技術部門は富山河川国道事務所「庄川災害復旧工事における地下水位への取り組み」、研究・論文部門は新潟応用地質研究会・平野地盤研究グループの「新潟県越後平野中央部地盤解析報告書」、富山県立大学の兵動太一氏の「Influence of fines on the monotonic and cyclic shear behaviour of volcanic soil “Shirasu”」、功績部門として、柴田聡氏および佐渡正氏が推薦され審議を行った。

また、功績部門の推薦基準について、よりわかりやすい目安を設けることで、授与漏れが起こらない方法を検討した。

3. 審議結果

(i) 技術部門

①候補者：富山河川国道事務所

対象技術：庄川災害復旧工事における地下水位への取り組みについて

推薦理由：

2021年8月豪雨によって被災した現場の大規模な災害復旧工事において、周辺の地下水位低下に配慮しながら工事を完成させるために実施した取り組みが推薦対象である。

河岸欠壊、堤防護岸損傷及び河岸保護ブロック流出の被災を受けた箇所に対する対策工事の際に、モニタリングのために、周辺住民の理解を得た上で既設の6つの使用していない井戸を借り、新規7本の観測井を公用地に設置し、リアルタイムのモニタリングを可能とするなど、これまでにない取り組みを行っている。

今後の同様な事例に対して参考になることに加えて、地域住民の理解を得るために実施した事等も書かれており、多くの技術者にとって参考になる事例で、報告書の掲載もなされていることから、「技術賞」に値するとの見解で一致した。

(ii)論文・研究部門

①候補者：新潟応用地質研究会・平野地盤研究グループ

対象論文：

令和 2～4 年度 新潟応用地質研究会グループ研究助成事業 成果報告「新潟県越後平野中央部地盤解析報告書」

推薦理由：

純粹な地質学的な解釈ではなく、土木工事を念頭に解析されたもので、地学の素養が少ない土木技術者であっても十分に内容が理解でき、かつ非常に有用な取り纏めがなされており、優れた研究報告に該当し、表彰に値する。すでに、34 以上の機関・個人に 340 部が配布されており、今後合計で 500 部ほど配布される予定であることから、十分に公開されたものであると判断できるため、「論文賞」として推薦することで一致した。

②候補者：兵動太一

対象論文：Influence of fines on the monotonic and cyclic shear behaviour of volcanic soil “Shirasu”

推薦理由：令和 6 年能登半島地震でも埋立地の液状化が注目されており、細粒分を多く含む場合でも液状化を起こすことが確認されている。火山灰質のしらすの再構成試料で非排水三軸試験を行った。膨大な量の実験をおこなっており、インパクトファクターの高い Engineering Geology に掲載されていることから受賞に値すると考えている。また、今回の地震の復興対策でも成果の利用が期待され、「研究奨励賞」として推薦することで一致した。

(iii)功績部門

①候補者：柴田聡氏

推薦理由：

柴田聡氏の地盤工学会北陸支部内での主な経歴は下記の通り。

2008 年～2009 年 評議員

2012 年～2013 年度 支部長（富山県土木部長）

氏は学会活動に支部長として寄与されており、「功績賞」として推薦することで一致した。

②候補者：佐渡正氏

推薦理由：

佐渡正氏の地盤工学会北陸支部内での主な経歴は下記の通り。

2004 年～2009 年 幹事

2010 年～2011 年 評議員

2012 年～2013 年 副支部長

2014 年～2015 年 評議員

氏は学会活動に長年寄与されており、「功績賞」として推薦することで一致した。

(iv)内規の変更について

現在の功績部門の内規は下記の通り。

(4) 功績部門：

功績賞 表彰基準：① 地盤工学会北陸支部の活動に永年従事し学会の進歩，発展，運営に顕著な貢献をしたと認められる業績

② 地盤工学会関係技術者の育成及び技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績

③ 地盤工学会の広報ならびに社会地位向上に貢献をしたと認められる業績

これまでも，支部長，副支部長経験者にはリタイア時に表彰する慣例があったが，「リタイア時」の定義が難しいため，表彰漏れが生じていた。このため，下記の注記をつけることを提案する。

・功績部門では，各地区の副支部長以上経験者が 65 歳になった時点で受賞を打診することを原則とする。

・表彰委員会では独自に役員名簿を管理し，特に年齢（生年月日）を含めたデータを収集するものとする。

2) ユースネットワーク委員会

第 3 回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会の開催報告

- ・北陸支部ユースネットワーク 第 3 回研究発表会
- ・開催日時：2023 年 12 月 8 日(金) 13:00～16:15
- ・会場：オンライン (Zoom Meeting)
- ・参加人数：48 名

北陸支部ユースネットワーク委員会では、昨年につき、学生を対象とした標記イベントを開催しました。地盤工学に関心のある学生間の地域ネットワークを構築し、各自の研究活動のモチベーションを高めてもらうこと、また支部活動の活性化を促すことを目的として開催しました。

研究発表会に先立ち、小林委員長からは「今後の北陸支部発展のため若手のネットワーク構築と、交流の場として活用してもらいたい」との挨拶がありました。

研究発表会はオンライン (Zoom Meeting)にて開催しました。前半は発表者を学生に限定した研究発表会を実施し、6セッションで計 35 件の研究発表がありました。そのうち、7 件を優秀発表賞として表彰しました。

後半は学生の交流行事として、ブレイクアウトルームにて少人数グループのフリートークを実施しました。

3) 令和6年能登半島地震被害調査団の報告

令和6年1月1日16時10分、能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、北陸地域一円に地震、津波、火災による被害が発生した。

とりわけ奥能登地域では道路インフラに甚大な被害が発生し、1か月が経過した今でも復旧活動に大きな支障がでている。

この大災害を受け、地盤工学会北陸支部では災害連絡会議と密接な情報交換を行い、1月3日に令和6年能登半島地震災害調査団（団長 金沢大学准教授 小林俊一）を組織した。

当初、国・石川県による奥能登地域への立ち入り自粛要請を受け、奥能登を除く北陸地域での情報収集と調査活動を開始した。

その後、災害規模の大きさに鑑み、2月1日からは地盤工学会本部の組織として活動を行っている。

幹事団および各部門と主査は以下の通りである。

【幹事団】

団長：小林俊一（金沢大学）、副団長：大塚悟（長岡技術科学大学）、副会長：古谷元（富山県立大学）、幹事長：新保泰輝（石川工業高等専門学校）

【主査】

地盤振動：後藤浩之（京都大学）

災害レジリエンス・斜面災害：酒井直樹（防災科学技術研究所）

液状化・側方流動：豊田浩史（長岡技術科学大学）

盛土・擁壁・補強土：宮田喜壽（防衛大学校）

津波・地盤の相互作用：渡邊健治（東京大学）

港湾・空港：渡部要一（北海道大学）

宅地：橋本隆雄（国土館大学）

基礎構造物：西岡英俊（中央大学）

ライフライン：庄司 学（筑波大学）

https://www.jiban.or.jp/?page_id=21412

3. 令和5年度決算報告

正味財産増減計算書 令和6年3月31日現在

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	1,085,760	540,000	545,760
調査研究・基準事業収益	684,760	71,000	613,760
その他	375,760	0	375,760
講演会等収益	162,000	41,000	121,000
見学会等収益	147,000	30,000	117,000
技術推進事業収益	401,000	469,000	△ 68,000
講習会収益	401,000	469,000	△ 68,000
雑収益	69,306	4	69,302
受取利息	6	4	2
その他	6	4	2
雑収益	69,300	0	69,300
課税	69,300	0	69,300
本部交付金	2,620,000	5,208,793	△ 2,588,793
経常収益計	3,775,066	5,748,797	△ 1,973,731
(2) 経常費用			
事業費	2,791,869	2,362,799	429,070
会議費	2,580	0	2,580
旅費交通費	129,680	60,200	69,480
通信運搬費	270,267	356,136	△ 85,869
消耗什器備品費	35,519	41,488	△ 5,969
印刷製本費	124,080	71,215	52,865
賃借料	330,440	224,220	106,220
会場使用料	158,580	45,660	112,920
保険料	18,810	16,550	2,260
諸謝金	418,493	339,320	79,173
委託費	1,180,000	1,180,000	0
支払手数料	28,930	22,880	6,050
雑費	94,490	5,130	89,360
経常費用計	2,791,869	2,362,799	429,070
評価損益等調整前当期経常増減額	983,197	3,385,998	△ 2,402,801

評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	983,197	3,385,998	△ 2,402,801
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	983,197	3,385,998	△ 2,402,801
一般正味財産期首残高	8,655,664	5,269,666	3,385,998
一般正味財産期末残高	9,638,861	8,655,664	983,197
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	9,638,861	8,655,664	983,197

貸借対照表 令和 6 年 3 月 31 日現在

公益社団法人地盤工学会

北陸

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	784,920	722,235	62,685
普通預金	784,920	722,235	62,685
第四北越銀行 白山支店	784,920	722,235	62,685
未収金	375,760	0	375,760
令和 5 年度分	375,760	0	375,760
前払金	19,610	0	19,610
その他	19,610	0	19,610
預け金	8,458,571	7,947,429	511,142
本部	8,458,571	7,947,429	511,142
流動資産合計	9,638,861	8,669,664	969,197
資産合計	9,638,861	8,669,664	969,197
II 負債の部			
1. 流動負債			

前受金	0	14,000	△ 14,000
その他	0	14,000	△ 14,000
流動負債合計	0	14,000	△ 14,000
負債合計	0	14,000	△ 14,000
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	9,638,861	8,655,664	983,197
負債及び正味財産合計	9,638,861	8,669,664	969,197

財産目録 令和 6 年 3 月 31 日現在

公益社団法人地盤工学会

北陸

公益目的事業会計

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金	普通預金		784,920
		第四北越銀行 白		784,920
		山		
		支店		
	未収金			375,760
	令和 5 年度分			375,760
	前払金			19,610
その他			19,610	
預け金			8,458,571	
本部			8,458,571	
流動資産合計				い
資産合計				9,638,861
正味財産				9,638,861

2) 会計監査報告

会計監査報告

2024年4月15日

公益社団法人地盤工学会北陸支部 殿

公益社団法人地盤工学会北陸支部

会計監査委員 開米 若久 

会計監査委員 道 勇治 

2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度における会計監査及び業務の監査を行い次のように報告する。

- (1) 2023年度公益社団法人地盤工学会北陸支部の収支計算、正味財産増減計算書、貸借対照表は法人の収支状況及び財産状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告の内容は適正であると認める。

以上

4. 本部・支部表彰

1) 永年会員への感謝状の授与

特別会員表彰

会員番号	社名
8950010	株式会社本間組 (35年)
9850370	中日本高速道路株式会社金沢支店 (25年)

永年会員表彰

会員番号	氏名	在会年
8101286	小野塚 清一 氏	43年
8510293	村上 満 氏	38年

2) 支部表彰の授与

技術部門 技術賞

富山河川国道事務所

対象技術：庄川災害復旧工事における地下水位への取り組みについて

論文・研究部門 論文賞

新潟応用地質研究会・平野地盤研究グループ

対象論文：令和 2～4 年度 新潟応用地質研究会グループ研究助成事業 成果報告「新潟県越後平野中央部地盤解析報告書」

兵動 太一 先生（富山県立大学）

対象論文：Influence of fines on the monotonic and cyclic shear behaviour of volcanic soil “Shirasu”

功績部門 功績賞

柴田 聡 氏

2008年～2009年 評議員

2012年～2013年度 支部長

佐渡 正 氏

2004年～2009年 幹事

2010年～2011年 評議員

2012年～2013年 副支部長

5. 役員改選

主要な役員を下表に示す。商議員、幹事、参与、顧問の名簿は巻末資料を参照。

支部長	高原 利幸	金沢工業大学
副支部長	倉重 毅	(一社)北陸地域づくり協会
副支部長	古谷 元	富山県立大学
副支部長	小林 俊一	金沢大学理工研究域
幹事長	新保 泰輝	石川工業高等専門学校
副幹事長	金澤 伸一	新潟大学
副幹事長	杉山 茂久	三和ボーリング(株)
副幹事長	玉村 清文	アルスコンサルタンツ(株)
支部監事	高橋 浩之	(株)興和
支部監事	湯川 公靖	北電技術コンサルタント(株)

6. 令和6年度の事業計画

まえぶん

公益出版事業〔公1〕

令和6年能登半島地震被害調査をふまえて「液化化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」の改訂を国土交通省北陸地整とともに検討する。流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行う。大学の先生方の講師によって実施された「土質力学講座5回シリーズ」の資料を印刷製本することを検討する。

調査・研究事業〔公2〕

災害協定を締結している国土交通省北陸地方整備局、石川県、富山県、新潟県、新潟市と相互協力し、令和6年能登半島地震被災の調査をおこない公表するイベントを企画する。昨年に引き続き若手、学生会員による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施する。

技術推進事業〔公3〕

災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催する。大学の先生らによる土質力学講座をシリーズ形式で引き続き実施する。セミナー、現場技術者のための講習会、実務者報告会をなるべく対面で実施し、建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

表彰関連事業〔公4〕

表彰関連事業は支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。

1) 総会・商議員会・幹事会の開催

第64回定例総会は本日、4月23日（火）に対面とオンライン併用のハイブリッド形式で金沢市にて開催する。商議員会は令和7年2月下旬に開催する。幹事会は年度の早い時期に開催し、年度予定を確定する。

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会の開催

下表は例年のイベントをまとめたものである。各地区においてはイベント開催日時の平準化をこころがける。

	イベント名	地区名
1	特別講演会（総会時）	全県
2	現場見学会	石川
3	とやまジオテクフォーラム	富山
4	現場技術者のための土質力学	石川
5	地盤工学講演会	新潟
6	ジオテクフォーラム	新潟
7	地盤調査法講習会	新潟
8	現場見学会	富山
9	第 88 回土質工学最新情報コロキウム	石川
10	ジオテクフォーラム	新潟
11	富山県職員研修	富山
12	現場見学会	新潟
13	実務者報告	石川
14	実務者報告	新潟
15	第 89 回土質工学最新情報コロキウム	富山
16	ユースネットワーク研究発表会	全県
17	土質力学講座	全県
18	特別講演会（商議員会）	全県

3) 液状化被害調査委員会の設立について

令和 6 年能登半島地震で北陸三県は広範囲に液状化被害を被った。そこで液状化被災調査を行い被災規模、被災区域を調査する委員会を立ちあげる。

液状化しやすさマップの新潟版は 2012 年、富山・石川版は 2013 年に発行され、10 年以上経過していることから、調査結果をもとに液状化しやすさマップを検証する。

7) 令和6年度予算

R6年4月1日からR7年3月31日まで	R5年度予算	R6年度予算案
(1) 経常収益		
① 事業収益	771,000	821,000
公益出版事業収益(公1)	(20,000)	(20,000)
印刷物配布収益	20,000	20,000
調査研究・基準事業収益(公2)	(550,000)	(400,000)
講演会等収益	300,000	200,000
見学会等収益	150,000	100,000
研究会等収益	100,000	100,000
技術推進事業収益(公3)	(200,000)	(400,000)
報告会収益	100,000	100,000
講習会収益	100,000	300,000
② 雑収益	1,000	1,000
受取利息	1,000	1,000
③ 他会計からの繰入額	0	0
本部交付金	2,500,000	2,620,000
経常収益計	3,271,000	3,441,000
(2) 経常費用		
① 事業費	1,135,000	1,240,000
調査研究・基準事業費(公2)	(635,000)	(635,000)
講演会費	235,000	235,000
見学会費	150,000	150,000
研究会費	250,000	250,000
ジオテクフォーラム・セミナー	100,000	50,000
雪割草の会	50,000	0
液状化被害調査委員会費	0	50,000
北陸支部防災会議	50,000	100,000
ユースネットワーク研究会	50,000	50,000
技術推進事業費(公3)	(400,000)	(500,000)
報告会費	200,000	200,000
講習会費	200,000	300,000
表彰委員会関連費(公4)	(100,000)	(105,000)
表彰委員会費	100,000	105,000
② 管理費	1,960,000	2,160,000
旅費交通費	150,000	250,000
通信費	400,000	400,000
賃貸料	70,000	70,000
消耗什器備品費	50,000	50,000
印刷製本代費	50,000	150,000
会場使用料	20,000	20,000
広告宣伝費	5,000	5,000
図書購入費	5,000	5,000
支払手数料	20,000	20,000
雑費	10,000	10,000
事務局委託費	1,180,000	1,180,000
経常費用計	3,095,000	3,400,000
当期経常増減額		1,000
一般正味財産期末残高	9,638,861	

8. その他